

第5回東京登龍会フォーラム「わたしと書（その魅力）」レジュメ

令和5年（2023）9月30日、港区生涯学習センター、303学習室

講師、遠藤昌弘

号：碩堂（せきどう）、昭和34年（1959）生まれ、白河第一小学校、白河中央中学校、白河高校

大東文化大学・文学部・中国文学科（文学士）筑波大学大学院・修士課程・芸術研究科美術専攻（芸術学修士）

著書「もっと知りたい臨書の世界」（2018　匠出版）

おもな現職、明治大学・文学部・講師、大東文化大学・文学部書道学科・講師

京都芸術大学・通信教育部・書画コース・講師、開成学園中学・高校・講師

書の役職・委嘱、日展・会友、福島県展・招待（審査員・運営委員）、読売書法会・理事（審査員）、

書の師、青山杉雨、明治45年（1912）愛知県に生まれる。本名：文雄、号：杉雨（さんう）

謙慎書道会・初代理事長、大東文化大学・教授、文部大臣賞、日本藝術院賞、日展・常任理事（審査員）・顧問

日本藝術院会員、文化功労者、文化勲章、平成5年（1993）逝去、八十一歳、従三位と銀杯一組を賜与される

篆刻の師、小林斗盦、大正5年（1916）埼玉県に生まれる。本名：庸浩、号：斗盦（とあん）

文部大臣賞、日展・常任理事（審査員）・顧問、恩賜賞・日本藝術院賞、日本藝術院会員、謙慎書道会・最高顧問

文化功労者、文化勲章、平成19年（2007）八月十三日逝去、九十一歳、従三位を賜与される

書の道具、筆・墨・硯・紙

新紙幣、令和6年（2024）7月前半、一万円、五千円、千円の3券種を改刷する予定

新一万円紙幣、渋沢栄一（1840～1931）、新五千紙幣、津田梅子（1864～1929）。新千円紙幣、北里 柴三郎（1853～1931）の肖像。現行、1万円札の福沢諭吉の肖像は平成16年（2004）11月1日から使用。

渋沢栄一、埼玉県深谷市出身。日本の実業家。江戸時代末期に農民から武士に取り立てられ、一橋慶喜に仕える。27歳の時、第15代将軍となった徳川慶喜の実弟徳川昭武に随行し、パリ万国博覧会を見学するほか欧州諸国を訪問。明治維新が起こり、欧州から帰国すると、静岡に「商法会所」を設立。その後、明治政府に招かれ、井上馨のもと、大蔵省の官僚として、造幣、戸籍、出納など、さまざまな政策立案を行い、新しい国作りに深く関わる。退官後は実業界に転じ、第一国立銀行、東京商法会議所、東京証券取引所などの企業や団体を設立・経営。生涯に約500社の企業に関わったとされ、「日本近代社会の創造者」と称される。同時に約600の教育機関や社会公共事業、研究機関等の設立・支援にも尽力。「論語と算盤」の言葉に代表される「道徳経済合一」の思想でも知られている。

紙幣の肖像の年代は、70歳の古希のお祝い時に撮影された写真複数枚を参考として描かれた。ただし、各方面で活躍されている躍動感や若々しさを表現するため、60歳代前半にリメイクされている。

掲示作品原文：順理則裕、従欲惟危。

落款、大正乙卯四月、為清水君囑、青澗書（渋沢栄一）。

理に順えば則ち裕か、欲に従えば惟れ危うし

「理」に順（したが）えば則（すなわ）ち裕（ゆた）か、「欲」に従えば惟れ危うし。

ういるし

出典：『小学』1187年、朱熹が劉子澄に編纂させた儒学の初等教科書

理（ことわり）に従って生きていけば、豊かになります。しかし、欲望（我利）に従って生きていけば、とても危険です。

物事の理は天（公）の道です。天の道をゆけば、繁栄が待っています。逆に、欲望の道は、利己の道です。後には、破滅が待っています。

書の鑑賞、書体について、篆書（てんしょ）・隸書（れいしょ）・楷書・行書・草書

漢字の五体+かな（仮名）、中国書+日本書

中国：王羲之（303-361）・顔真卿（709-785）、日本：空海

三筆（平安初期に活躍）

- 空海（774-835）醍醐天皇から「弘法大師」の諡号が贈られた（921）「聾瞽指帰」（国宝）金剛峯寺、「灌頂歴名」（国宝）神護寺、「風信帖」（国宝）東寺
- 嵯峨天皇（786-842）第52代天皇（809-823）「光定戒牒」（国宝）延暦寺
- 橘逸勢（782?-842）

三跡（三蹟　平安中期に活躍）

- 小野道風（894-967）野跡　「智証大師諡号勅書」（国宝）東京国立博物館、「屏風土代」三の丸尚蔵館、「玉泉帖」三の丸尚蔵館
 - 藤原佐理（944-998）佐跡　「詩懷紙」（国宝）香川県立ミュージアム、「書状（離洛帖）」（国宝）畠山記念館、「書状（恩命帖）」　三の丸尚蔵館
 - 藤原行成（972-1028）権跡　「白氏詩卷」（国宝）東京国立博物館、「本能寺切」（国宝）本能寺「書状」（重要文化財）東京国立博物館
- 藤原行成（世尊寺流）→青蓮院流（尊円流）→御家流（明治以前、公文書の揮毫様式）

書の分野

写経、聖徳太子『法華義疏』（615）に始まり、奈良（天平白鳳）期に隆盛して、今日に至る。

墨跡（墨蹟）、とくに鎌倉期に活躍した禅宗僧の書（禅林墨蹟）、今日でも禅宗僧の書は尊重されている。

手習いとしての書道、習字教室。

学生対象の大規模展覧会、高野山、日本武道館、明治神宮、成田山など

書道パフォーマンス、とくに高校生。

大人を対象とした書道展、日展、読売書法展、毎日展、サンケイ国際書展など